



原爆ドームの前で撮影する派遣団

派遣団新聞

広島平和記念式典

発行：安平町役場

【写真提供】
教育委員会社会教育グループ

令和 5 年
9 月 5 日

特別号

平和への祈り込めて…

5名の代表児童生徒派遣

平和記念式典への派遣事業は、恒久平和への願い・平和教育の一環として、昭和63年の旧追分町時代に始まり、合併後も続いてきた事業である。

今年、町内の小中高生5名と職員2名が8月5日～7日の日程で、戦争や原爆の凄惨さを現地で学んだ。

8月5日、広島県へ到着した派遣団は、町内の児童生徒（学校・児童館）、町民の皆さんが「平和への祈り」を込めて織り込んだ千羽鶴を「原爆の子の像」へ奉納した。千羽鶴を奉納したあとは「広島平和記念資料館」へ移動。



折り鶴奉納の様子

資料館では、事前研修で決定した各々のテーマを中心に、原爆投下直後の様子を、資料から学んだ。衝撃的な写真や映像が多く並ぶ資料館で、熱心に筆を走らせていた派遣団のメンバー。

「原爆による被害を受けた方の写真が並ぶフロアで、このフロアに入った瞬間のなんとも言えない雰囲気は、現地に来ないと感じられない」と、メンバーの一人である木村さんは話す。



広島平和記念資料館での派遣団の様子

